

日本食品保健指導士会会報

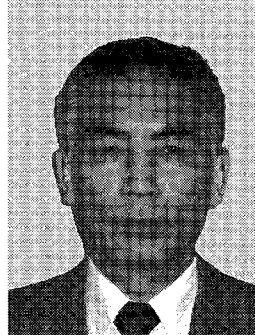
【第18号】 ■発行：平成20年1月1日
■発行所：日本食品保健指導士会

東京都新宿区市谷砂土原町2-7-27 TEL. 03-3268-3160 FAX. 03-3268-3373
(財団法人日本健康・栄養食品協会教育研修部内)

『明けましておめでとうございます』

国際生命科学研機構(I L S I JAPAN)

事務局長 浜野 弘 昭



平成二〇年が「真の表示元年」となればと祈りつつ、年頭のご挨拶を申し上げます。

旧年は、大変残念なことですが、食品の表示に関連して多くの問題が露呈しました。原材料に関する偽装表示、日付の改ざん、不適切な表示などなど、あまりいい話題のなかった感があります。そもそも、「食品表示のあり方」はどうなっているのでしょうか。いったい食品の表示は何のため、誰のためなのか。

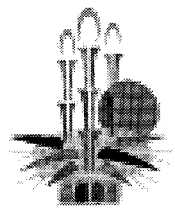
食品表示の目的は、本来、消費者が賢明で正しい食品選択が出来るように、その食品に関する正しい情報提供であり、食品に含まれる栄養素に関する情報の伝達手段であるはずで、エネルギーや脂肪の摂りすぎ、栄養素のアンバランスなどが国民的な課題となっている現在、もはや、正しい情報提供だけでは不十分と言わざるをえません。そこには、食生活や栄養に関わる消費者教育という視点が不可欠となっています。食品やサプリメントに関わる者、行政や専門家を含めて、まず「食」の意味

を正しく把握し、消費者を始めとした非専門家に対して、健康食品などについて、分かり易く説明する能力と努力が求められますし、消費者も、そういった食品について、その効果、効用あるいは限界について理解する能力あるいは基礎知識が求められます。

食品表示がそのための重要な手段となるべきなのです。現在、いわゆる健康食品をめぐって、安全性の問題ばかりでなく、その使い方、あり方の問題を含めて、多くの混乱が生じています。消費者に安全な健康食品を、正しい理解と共に提供することが求められているのです。

国際的には、二〇〇四年にWHOが「食事と運動に関わる世界戦略」を発表し、その実現のためコーデックスにおいて、「栄養や健康に関わる表示」の見直しが始まっています。今後、特に栄養或いは健康に関わる諸問題は、「WHO世界戦略の実施」という大命題を前提として考え、この視点から例えば飽和脂肪酸やトランス脂肪酸の表示の問題について取り組もうとしているのです。現在、コーデックス食品表示部会において、この問題に対して作業部会を設置することが合意され、今年五月の会議から本格的な検討が始まります。

これまでの「遵守するべき、取締り規則としての表示基準から、消費者のための、栄養或いは健康戦略としての表示制度へ」、食品の表示に関わる国際的な潮流の大きな転換点が来たと言えます。



新春雑感

指導士会の活動に是非ご参加を

日本食品保健指導士会 会長 関本 邦敏



新年明けましておめでと
うございます。昨年は皆様
方のお力添えにより新幹事
会で何とか無事に動き出す
ことが出来ました。本年は
一層皆様方のお役に立つよ
うな活動を目指して取り組んでまいる所存で
すので宜しくご支援ご協力をお願い申し上げます。

今年は十二支の初めの子年です。気分を新
たに指導士会元年の気持ちで、子年らしく小
まめにフットワークを軽く活動することが大
事だと心新たに致しております。皆様方も職
場で、家庭で年頭にあたり心新たな決意をさ
れたことと存じます。

ところで最近特に歳と共に時間の経過が
年々早く感じられるようになり焦っております。
皆さまは如何でしょうか。時計上での時
間は普通ですが精神心理学上の時間はその
時々々の状態で大いに変化していると思ってい
ます。これを生物学的時間と言うそうですね。
ある生物学者の説によりますと一〇歳の子供
の一年間は1/10ですが定年を迎えた六〇
歳の方は1/60ですので、約六倍短く感じ
るのだと言うことです。なるほどなど感心し
ているこのごろです。

暫らく間がありました新しい指導士認定の
ための研修会が本年の初夏の頃には再開され
そうです。協会も色々検討に時間をかけて
きましたので受講しやすい形でしかも内容は
充実したものになるものと確信いたしております。
現在八〇〇有余名で止まっておりま
す。有資格者をどんどん増やして頂き指導士会の
会員数の増加を会の活力につなげて生きたい
と願っております。

昨年は、東京・大阪での秋期研修会をきつ
かけに指導士の集いに新たな風が吹き込まれ
ました。各地域での指導士の交流が非常に大
事であることを機会あるごとに申し上げてま
いりました。人は一人ではたいした力を発揮
できません。日々の仕事や活動で身近に相談
できる人や同じ問題意識を共有している指導
士会に集う仲間が近くに大勢いることは何に
も変えがたい力になります。日本食品保健指
導士会はエネルギーな若い方からベテラ
ン熟練の方まで色々なバックグラウンドを持ち
さまざまな分野の専門性を持ち、尚且つ多く
の人脈を持つ方々の集いです。私は、指導士
の資格を取った最大のメリットがこのような
仲間と出会えたことだと感謝しています。皆
様も同感ではないかと存じます。このメリッ
トを最大限活かさない手はありません。人は
生涯に何人の人と出会えるのかと考えたこと
は無いですか。家族・親族・幼稚園・小学校・
中学校・高等学校・大学・大学院あるいは専
門学校や塾、会社そしてこの間のお稽古事の
教室、学外や社外のサークル活動くらいでし
ょうか。その中で知り合える人は、世界の人

口からすればほんの雀の涙以下でしょうね。
それも自分から積極的に行動を広げなければ
知り合える人の数は増えません。ただ会員に
なっているだけでは人脈は広がりません。ケ
ネデイの言葉ではありませんが何をしてくれ
るのかではなく自分が何をやるか出来るかを
考えることが大事です。そうすることで多く
の人と親しくなれます。忙しいと言っている
理由にしてチャンスのみすみす逃している
は思いませんか。積極的に世話役を引き受け
ることが苦労も多いですがそれ以上に有意義
な何かをもたらすことは経験者ならば誰でも
知っていることではないでしょうか。自戒を
こめて申し上げますが忙しいと言っているのは自分
に甘いだけです。

企業で活躍している方も企業外の活動に
積極的に参加することで必ず仕事に有益な結
果がフィードバックされます。新入社員でな
ければ時間のやりくりはご自身で必ず出来る
はずですし、出来ないようでは申し訳ありま
せんが会社でもたいした活躍は出来ないでし
ょう。幅広い人脈を持つ人が必ず将来大きく
羽ばたいています。是非、指導士会の仲間も
貴方の人脈に加えてみたら如何でしょうか。
折角同じ授業を受けて資格を取ったのですか
ら気軽に声をかけることが出来ますので。
今年こそ積極的に指導士会の活動や協会の勉
強に参加し、出来れば各地区での世話役とし
て活動して頂きたいものと願っております。
健康を指導するものが不健康では笑えま
せんので体を鍛えて頑張りましょう。皆さま
の飛躍の年になりますようお願い申し上げます。



日本食品保健指導士会 Web ページに関して

幹 事 阿 部 真

いよいよ日本食品保健指導士会の Web ページがオープンいたします。財団法人日本健康・栄養食品協会のご配慮、ならびに日本食品保健指導士会の有志のご協力により、この Web ページを開設できました事にこの場をお借りして御礼申し上げます。

このページは、大きく 2 部構成で、ひとつは、一般の方に向けての情報発信の場として、もうひとつは、会員同士の情報収集、コミュニケーションの場としての専用ページです。

また、日本食品保健指導士会のロゴマークは、英文表記 **J**apan **F**ood **Q**uality **A**dviser **O**rganization の頭文字 **JFQAO** を基に、内木桂指導士にお骨折りいただき創っていただきました。

ページの構成に関しては、橋口幸子指導士に骨子を作っていただきました。さらに、田中由美指導士には、管理栄養士としての活動や中医学をテーマに、連載コーナーを快くお引き受けいただきました。

ほかにも沢山の方々にお力添えいただきようやくここまでたどり着きました。

Web ページは、皆様方に利用していただくことにより、少しずつ成長していきます。会員の皆様の活動状況、近況報告、こんなことを悩んでいるなど質問などをお寄せいただけたらと思います。一方通行でなく、相互のコミュニケーションの道具として利用していただければ幸いです。

今後とも皆様のご協力、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。

末筆になりましたが、Web ページの運営にご協力いただける方を募集しております。コンテンツの新規追加・訂正、リンク先拡充などメンテナンスにご協力いただける方は、info@jfqao.jp までぜひご連絡ください。また、投稿も歓迎いたします。どしどしご応募ください。



《特集》

食品保健指導士の

職場を訪ねて②

K a i r o s 代表

田中由美さん



- ・平成三年女子栄養大学卒
- ・病院勤務歴／大船中央病院、松島病院、厚生中央病院
- ・平成一〇～一一年カナダ滞在
- ・平成一四年独立
- ・平成一七年K a i r o s を立ち上げ現在に至る
- ・管理栄養士、健康運動指導士、食品保健指導士

今回登場する食品保健指導士（以下指導士と記す）は田中由美さんです。

師走に入った一二月六日、田中指導士が仕事先に向う途中の寸暇を頂戴して、ダイヤモンドホテルにて、関本会長がインタビューをしました（記録は杉浦事務局長）。

関本会長と田中指導士は、食品保健指導士養成講習会において同期生（第三期生）とい

田中由美指導士の活躍状況

1. 日本ベジタブル&フルーツマイスター協会 認定資格講座講師(平成15年7月～)
2. 日本栄養新聞社 栄養講座 会場スタッフ(平成16年4月～)
3. 出版協力(栄養指導-監修)
 - 『つよく、やさしく、うつくしく』池澤智著 ぴあ出版(平成17年3月出版)
 - 『トータルワークアウト式3週間ダイエット/バイブル』池澤智著 法研(平成19年3月出版)
 - 『モチからたしレシピ』/ペンソエッタ喜久子著 ヴィレッジブックス(平成19年7月出版)
 - 『カクテルトーク』堀山達己、藤井フミヤ著 学研(平成19年10月出版)
4. ヘルスアップ事業
 - 平成18年 埼玉県／ときがわ町、小山町
群馬県／富士見村、太田市
静岡県／御殿場市
山梨県／韭崎市
 - 平成19年 埼玉県／志木市、和光市
静岡県／伊東市
青森県／五所川原市

うよしみで、今回、関本会長の推薦によって対談が実現しました。「明るいい人」「努力する人」「指導士のお手本となる人」ということが関本会長の推薦理由でした。

自分探しの一四年間でした。

（関本）今日はお忙しい中、インタビューに応じて下さりありがとうございます。それでは、早速ですが、田中さんのプロフィールを簡単に自己紹介して下さい。

（田中）今日はおよろしく願います。私は東京都品川区の生まれで育ちは横浜です。平成三年に女子栄養大学栄養学部を卒業しました。

以後、管理栄養士として一六年の年月が過ぎました。

（関本）管理栄養士としてどのような仕事をされてきたんですか？

（田中）大学卒業後、大船中央病院と松島病院にそれぞれ三年半ずつ勤務しました。その後、考えることがあって、カナダへ八カ月ほど行きました。その後帰国してから、病院やサプリメント企業の勤務を経て、平成一四年からフリーになりました。現在のk a i r o s は平成一七年に立ち上げました。

（関本）k a i r o s とは？

（田中）これはギリシャ語で“かけがえのない時・きつかけ”という意味です。ご縁のあった方々がかけがえのない時を楽しく過ぎしていただけるよう、なにかきつかけ作りができたら・・・と思つてつけました。

（関本）素晴らしい名称ですね。ところで、カナダへは留学で行かれたんですか？

（田中）いいえ、語学修業も兼ねてワーキングホリデーで行きました。

（関本）どんなことをされたんですか。

（田中）アルバイトもしましたが、バンクーバーで栄養士会の方から個人的にということでご紹介いただいた、日本でいうところの特別養護老人ホームで在加日本人向けイベントのボランティアをしたりもしました。栄養管理の様子なども見ることができ、勉強になりました。

（関本）ところで、指導士の資格を取得しようと思った動機はなんでしょうか？

（田中）カナダから帰ってきて病院勤務した

後、サプリメントに関する仕事を始めましたが、サプリメントは広範な知識を必要とし、なかなか分りにくくて困っていました。そのようなときに、指導士とサプリメントアドバイザーのを知りました。系統だった勉強ができるのは(財)日本健康・栄養食品協会(以下日健栄協と記す)の指導士だと判断し、それを受講することにしました。

サプリメントはまだ未明?

(田中) 栄養士の中では、サプリメントの使用に反対する意見が少なくありませんが、私



日本食品保健指導士会
関本邦敏会長



は、利用する側しだいではないかと思えます。

(関本) 栄養士は、一般的に一日三回の食事のバランスが摂れていればいいと思っている人が案外多いのではないかと思っていますが、

(田中) 三食食べるのは基本ではあると思いますがその上で、人によっては、サプリメントを利用してよりよい状態を目指してもよいのではと思っています。

(関本) これからの栄養士さんは、個々にオーダーメイド的に対応していく必要があるという事でしょうか?

(田中) そうですね。
(関本) しかし、栄養成分だけ補ってもダメでしょうか?

(田中) そうですね。欠乏症というものはなかったとしてもとるべき成分があるのでないかとは思っています。一般に、食品は安全でなければならぬとし、サプリメントは危

険と思われることがあります。食品でもとりすぎればマイナスに働くこともあるわけで、結局は利用する側の問題なのではないでしょうか。

(関本) 自然の食べ物はすべて安全かということ、そんなことはありませんね。

(田中) そうですね、私が常々納得がいかなのは、サプリメントを食品の区分に入れていることです。本質的には一般的な食品とは違うので別区分にすべきだと思っています。

(関本) サプリメントは、食物でも薬でもない独自のカテゴリーが必要ですね。

(田中) 同感です。食品は嗜好を満足させるという役割もありますが、サプリメントにそれはありませんから。でも、効率はよい。

(関本) 管理栄養士ですが、指導の発想が自由に広げられる人もいらつしやるでしょうが、栄養のバランスだけを重視するため、サプリメントは必要ないと指導する人が結構多いのではないかと思っています。現実的には食事の摂取状態や消化効率是个々人でまったく異なりますので、そのような指導では、バランスのよい食事はできないことになるのではないのでしょうか。栄養評価をした上で、不足している栄養をサプリメントで補うというのがいいと思います。

(田中) 安易にサプリメントを奨めてはいけません。食べるところまでは食べた上で、プラスαの力をサプリメントに期待することはよいのではないのでしょうか。

(関本) もともとサプリメントは、栄養補助すなわち栄養の不足を補うという面と機能性

食品という面がありますね。ときにその機能を期待してもよいと思います。例えばカテキンですが、健康に有用性のある量を得るには、お茶を飲むだけでは無理なので、一定量を補えるサプリメントを利用する方が効率的です。ただし有用性については、エビデンスを確認することですね。

(田中)機能性に関するエビデンスの拡充は、メーカーの方々に、ぜひとも頑張ってくださいたいものです。

マルチ能力で消費者に貢献したい!

(関本) 指導士の資格は仕事に生かされていますか?

(田中) 資格を取得してよかったですと思っています。しかし、資格を取得してからは本当の勉強ですね。今ほどのような商品が、どのような人に推奨できるのかを判断できるようにになりたいと思っています。

(関本) そうですか。多くのサプリメントの中で、少し研究されていて問題ないとされているのが特定保健用食品(以下トクホと記す)だと思えます。しかし、トクホといっても、そのエビデンスはパーフェクトではないと思っています。他に品質において信頼できる日健栄協認定のJHFAマーク商品がありますが、品質の保証はしていますが残念ながら機能までの保証はしていません。もっともっと機能面で信頼できる商品が出て欲しいと思っています。

(田中) サプリメントの価値観として、エビデンスの有無が世の中の関心事となっています。

すが、物によって、論文の量や質がバラバラのように見受けられますが。

(関本) そうですね。トクホのデータでさえ疑問を提起する報告が始めてきています。

(田中) ときには、データは万能ではないかも知れませんが。その人には効果がなくてもこの人には効果があるということもあると思います。また、研究を都合よく解釈されてしまうこともあるように感じています。

(関本) 一般の食品については、その効用の証明はほとんどありませんね。あるのは長年の食経験という歴史だけです。ところで、田中さんは、どのような形で消費者と接したいと思っていますか?

(田中) 生活者の皆様が心地よい生活を過していくことができるように、指導士及び管理栄養士、その他の資格であります健康運動指導士の職能を生かしてサプリメント・健康食品も含め、トータルケアのカウンセリングができればと思っています。

(関本) なるほど一要素だけでは不十分ということですね。そのような考え方が中医学を学ぶ動機となったのでしょうか?

(田中) 平成一三年頃、サプリメントの会社で働いていたとき、その顧問だった医師から、代替医療やサプリメントを学んでいましたが、もっと本格的に学ぶには、中医学のバックグラウンドが必要だということに気づいたからです。そのような折に関本会長に中医学の先生を紹介していただきました。今、ほぼ毎日曜日に、遼寧省中医学大学附属日本中医学学院に通っています。三年間の通学をし、

卒業後、試験に合格することによって国際中医師としての資格をいただくことができます。(関本) 我が国の医学界ではまだ中医師が臨床医療をすることを認めていませんが、今後一〇年以内には認められるようになるのではないかと思います。

指導士は情報が必要です。

(関本) 指導士の資格を取得してよかったです。とはいっていいのでしょうか?

(田中) 患者様やクライアントと話するとき、『その人にとっての健康食品』として考えることができるようになったこと。他の指導士と情報交換できるネットワークができたことがありがたいです。

(関本) 日健栄協や指導士会への要望はありますか?

(田中) 勉強会の機会をもっと増やして欲しいです。日健栄協ではJHFAマークの素材勉強会がありますが、限られた人しか参加できませんので、様々なスタイルの勉強会を開催して欲しいと思っています。また講義の内容も良い情報だけでなく、企業にとって都合も考える情報もオープンにして欲しいと思います。私たち指導士は情報を正しく認識し、個人にあわせて、紹介をしていく必要がありますので。

(関本) 今、日健栄協も指導士会もそれぞれのニーズから有益な資料を作成しようとしています。今後、田中さんの益々の活躍を期待しています。本日はありがとうございました。(田中) ありがとうございます。

「秋期研修会」開催

Ⅱ講演二題Ⅱ

『①JHFA製品の過去・現在・未来』

『②C・Q10の概要』

Ⅱ東京・大阪で開催Ⅱ

《東京会場》

◆開催日：平成一九年一月一七日（土）

一三時三〇分～一六時

◆開催場所：（財）日本健康・栄養食品協会

会三階会議室

◆講師：

①（財）日本健康・栄養食品協会

健康食品部 部長 石田幸久先生

②日清フアルマ株式会社

事業開発部 次長 山岸俊彦先生

◆参加者：二〇名

《大阪会場》

◆開催日：平成一九年二月八日（土）

一四時～一六時三〇分

◆開催場所：新大阪丸ビル本館二〇二号室

◆講師：

①（財）日本健康・栄養食品協会

健康食品部 部長 石田幸久先生

②株式会社カネカ 機能性食品事業部

グループリーダー 福富直樹先生

◆参加者：一六名

毎年、日本食品保健指導士会（以下当会と記す）の主要活動として「秋期研修会」を実施しております。今年も、より多くの食品保健指導士（以下指導士と記す）に研修の機会を提供するため、東京と大阪の二地区において開催しました。

今年は、多くの指導士の要望に応え、私たちの母体であります（財）日本健康・栄養食品協会（以下日健栄協と記す）が制定しているJHFA規格基準の概要と代表的なJHFAマーク表示製品のC・Q10の2テーマについて受講することとしました。

講師は、日健栄協・健康食品部の石田部長、日清フアルマ㈱の山岸先生及びカネカの福富先生にお願いいたしました。

開催当日は、幹事のほか数名の指導士の協力を得ました。東京会場の受付係を渡邊笑淳・藤沢京子指導士、大阪会場の受付係を坂口陽子指導士、講師接待係を是枝明美指導士、会場設営係を鶴田力也指導士にお務めいただきました。ミネラルウォーターは、今年も能美茂幹事の勤務先の赤穂化成㈱様より提供いただきました。また日健栄協様からは、会議室の貸とおよびお世話係として教育研修部の岩浪課長、斎藤悠子職員に出動いただくなどの支援をいただきました。ご協力いただいたすべての方々に感謝申し上げます。

両会場とも、講師方の熱弁で、多数の質問も出、極めて充実した研修会となりました。大阪会場は、研修会終了後、今後の関西地区の活動の活性化を期して懇親会を行ないました。一一名の参加者を得、和気藹々の雰囲気

気の中に活発な意見交換が行われ、次回の地区会は、二月に名古屋で開催することを約して散会となりました。

講演要旨

一、『①JHFA製品の過去・現在・未来』

日健栄協 健康食品部 石田幸久先生

① JHFAマーク規定制度の発足、表示許可品の概要と現状等

② JHFA規格規準内容、認定手順

③ 健康補助食品GMPの概要、認定手順

④ これからの健康食品についての提言

二、『②C・Q10の概要』

日清フアルマ株式会社

事業開発部 次長 山岸俊彦先生

① C・Q10の本質、開発経緯、安全性

② C・Q10の国際的研究状況

③ C・Q10の機能

④ C・Q10の各種治験内容

三、『②C・Q10の概要』

株式会社カネカ 機能性食品事業部

グループリーダー 福富直樹先生

① C・Q10の本質、開発経緯

② C・Q10の国際的使用実績

③ C・Q10の製造方法、安全性

④ C・Q10の学術研究、機能

◆主催／日本食品保健指導士会

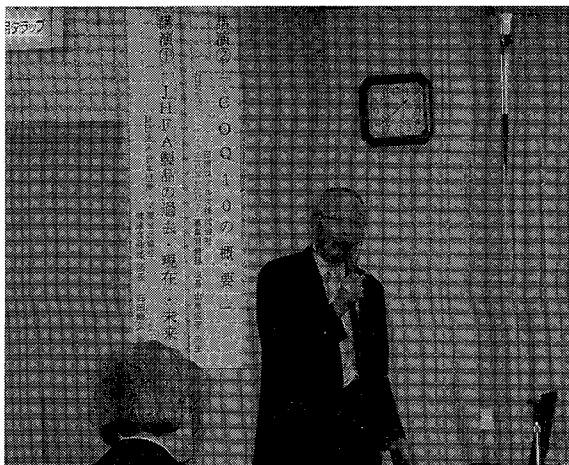
◆後援／（財）日本健康・栄養食品協会



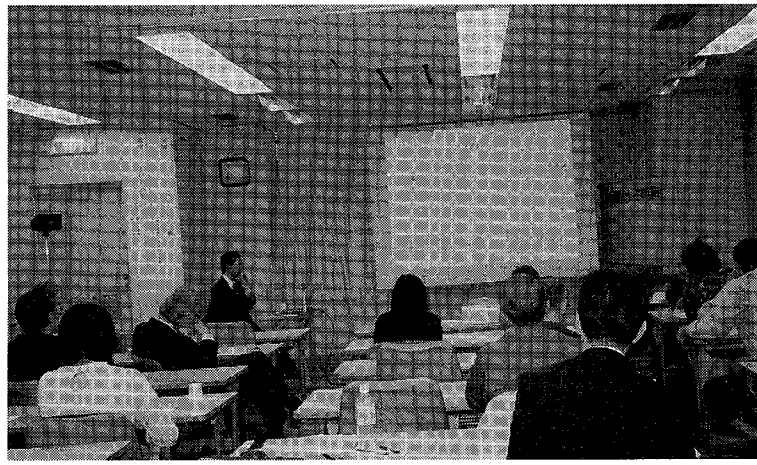
▲ 東京会場／受付の渡邊・藤澤指導士、斎藤職員



▲ 東京会場／挨拶する関本会長



▲ 東京会場／講師の石田先生



▲ 東京会場／講師の山岸先生



▲ 東京会場／研修会場風景

平成 19 年度 「秋期研修会」



▲ 大阪会場／講師の石田先生



▲ 大阪会場／挨拶する池田副会長と能美幹事



▲ 大阪会場／講師の福富先生



▲ 大阪会場／研修会場風景



▲ 懇親会場（ホテルコンサルト内）／懇親会風景

◎大盛況！「消費生活講座」で講演

滋賀県 坂口 陽子

去る一月六日、宇治市生涯学習センターにおいて、同市商工観光課が主催している「平成一九年度後期消費生活講座」の一環として、「健康食品って何？ーいわゆる健康食品と保健機能食品の違いー」という演題で講演を行いました。

食の安全がとかく世間を騒がせていることを反映してか、参加者は七〇名と会場一杯の満席となる盛況ぶりでした。

健康食品と保健機能食品の概要及びそれらの正しい考え方や摂取の仕方について分りやすく解説しました。また、日常の食生活の改善法として、「味噌汁健康法」の実践を提案させていただきました。

機会を与えていただきました日健栄協及び指導士会に感謝いたします。

◎「第一四回千葉県地区会」開催

- ・日時／一二月二六日(日) 一四時～一六時
- ・場所／千葉市文化センター九階会議室
- ・講演／「油脂栄養・特にアルファリノレン酸について」

- ・講師／関本邦敏会長
- ・参加者／一八名
- ・その他／研修会終了後、忘年会場に席を移し、楽しい懇談のひと時を過ぎました。

★千葉県支部長に吉池修指導士を推薦！

当日、杉浦事務局長より、長年、千葉県指導士の集いに尽力されている吉池修指導士を支部長に推薦したいとの提案がなされ、参加者全員の賛同を得ました。次回開催の幹事会において承認を得次第、正式決定となります。

日本食品保健指導士会活動

●平成一九年度第五回幹事会

- ▽平成一九年九月二八日(木)
- ▽於／(財)日本健康・栄養食品協会一F
- ▽出席幹事／関本会長、池田副会長、高村・能美・阿部・松山・岸本幹事、杉浦事務局長(八名)
- ▽オブザーバー／日健栄協・教育研修部齋藤悠子職員(一名)
- ▽議題／①Web Pageの立ち上げの件、②秋期研修会・講師の件、③会員必教育研修部活動情報の件携資料作成の件、④組織化の件、⑤支部活動の活性化の件、⑥会費納入状況の件、⑦会報第一七号発行の件、⑧その他(一)H二〇年度健康博覧会タイアップの件、⑨その他(二)成田幸恵指導士の監事辞任依頼を承認し、新任候補として松本三恵子指導士を承認(後日承諾を得る)、⑩教育研修部の活動情報の件

●平成一八年度第六回幹事会

- ▽平成一八年一月九日(金)
- ▽於／(財)日本健康・栄養食品協会一F
- ▽出席幹事／関本会長、池田副会長、高村・能美・阿部・松山・岸本幹事、杉浦事務局長(八名)
- ▽オブザーバー／日健栄協・教育研修部岩浪課長(一名)
- ▽議題／①秋期研修会の準備状況の件、②会員必携資料作成の件、③組織化の件、④支部活動の活性化の件、⑤会費納入状況の件、⑥会報第一八号発行の件、⑦その他(一)H二〇年度健康博覧会タイアップの件、⑧その他(二)宇治市からの講師派遣依頼に滋賀県の坂口陽子指導士の推薦を承認、⑨教育研修部の活動情報の件

(以上)

◆求人案内◆

左記の企業から食品保健指導士を採用したいとの希望が寄せられています。希望者は個人のリスク負担において対応して下さい。

- ◎業務内容：製品トレーニングの構築と実施、会員や消費者を美容・食生活・栄養面及びパーソナル・ケア関連の分野において教育し、実用可能なレベルにトレーニングする。

日本ユサナ株式会社(担当：五月女さん)
東京都渋谷区代々木1-35-4 代々木クリ
スタルビル5階 Tel.03-55354-4116